

会議概要

会議名 令和 7 年度(第2回)清川村学校給食センター運営委員会

日 時 令和8年2月 16 日(月)午後3時 30 分から午後4時 30 分まで

場 所 清川村役場庁舎 4 階 住民センター集会室

参加者 委員:10 名

教育委員会事務局:3 名

1 開会(所長)

2 あいさつ(委員長)

3 議題(所長)

(1) 令和 7 年度 決算収支見込について

- ・ 収入・支出合計: 12,931,578 円(収支差引 0 円の見込み)。
- ・ 収入の内訳:
 - ・ 給食費: 11,262,545 円(児童生徒分は公費補助、教職員分は実費)。
 - ・ 繰越金: 184 円。(前年度からの繰越金)
 - ・ 雑入: 2,289 円。(貯金利息)
 - ・ 補助金: 1,666,560 円(物価高騰に伴う追加公費投入。国の交付金が充てられる見込み)。
- ・ 支出の内訳:
 - ・ 物資代(食材費): 12,921,513 円。
 - ・ 予備費: 0 円。
 - ・ 還付金: 10,065 円(体質的に飲めない教職員の牛乳代返金分)。
- ・ その他: 詳細な決算報告は令和 8 年度の第 1 回運営委員会で行う予定。

(2) 令和 8 年度 事業予定について

- ・ 給食実施回数: 年間最大 181 回(年末年始の曜日の関係で今年度より 3 日減少)。
- ・ 給食人員見込み: 各学校・幼稚園の給食人員数を別添資料に基づき計画。
- ・ 運営委員会開催計画: 令和 8 年度は 7 月と 2 月の年 2 回開催を予定。その他、担当者会議、調理員の研修を行う予定。
- ・ その他: 令和 8 年度の第 1 回運営委員会で改めて諮る予定。

(3) 令和 8 年度 収支予算の予定について

- ・ 予算額: 収入・支出ともに 13,094,800 円。
- ・ 予算増の理由: 後述の給食費改定(値上げ)案を反映。
- ・ 方針: 児童生徒分は引き続き公費(補助金)で負担、教職員分は改定後の価格で実費徴収。
- ・ その他: 令和 8 年度の第 1 回運営委員会で改めて諮る予定。

(4) 令和 8 年度 給食物資納入業者(案)について

- ・ 業者選定: 今年度と同様の業者を選定し、承認された。
- ・ 変更箇所: 長年、麺類を納入していた「株式会社川なべ」が 12 月で廃業。
- ・ 現在の対応: (公財)神奈川県学校給食会でも代替業者が見つかっていないため、センター側で冷凍麺や乾麺を調理して提供する工夫を行っている。

(5) 給食費について

- ・ 改定内容(月額案): 下記の改定案で承認された。

(現行月額) (改定案)

- ・ 小学校: 4,400 円 → 5,300 円
- ・ 中学校: 5,000 円 → 6,000 円
- ・ 幼稚園: 3,500 円 → 4,200 円
- ・ 背景: 食材費の高騰により、1 食あたりの平均単価が令和 6 年度実績の 285.4 円から、令和 7 年度現在実績では 313.8 円(約 30 円上昇)に増加しており、整理をしたところ、上記の月額案となった。
- ・ 国の方針: 令和 8 年 4 月より公立小学校の児童 1 人につき、基準額の月額 5,200 円を国と県が負担し食材費相当額として支援する。村に入る歳入としては、県からの支出金として入る見込み。
- ・ 保護者負担について: 村の方針として「実質無償化」を継続するため、値上げ分も村が補助金で負担する。保護者への直接的な負担増はないが、教職員は実費負担増となる。
- ・ 手続: 令和 8 年度も「実質無償化」を実施するため、保護者から学校・園への「委任状」の提出を依頼する予定。

※ 課長補足:

- ・ 無償化政策の継続: 現在、保護者負担を全額補助しているが、これは村独自の施策である。令和 8 年 4 月からは国と県が負担し、公立小学校児童の食材費相当額が村へ交付される。本来、保護者負担がある場合は値上げに際して非常に丁寧な時間をかけた説明が必要だが、今回も村が全額補助する形であるため、この場での審議・承認という流れをとらせていただいた。
- ・ 教職員への影響: 児童生徒は無償だが、教職員は「実費負担」であるため、今回の改定は先生方の直接的な負担増となる。これについては、既に校長会などで 2 回ほど説明を行い、理解を求めている。
- ・ 将来的な方針: もし今後、村の施策変更により全額補助を終了し、保護者に負担をお願いすることになった場合は、改めて丁寧に説明を行う。

(6) その他(調理委託の検討、委員の感想)

- ・ 調理業務の民間委託検討:

- ・理由：調理員の欠員(1月に2名退職したが、2月に2名採用できた。)や引き続き、時給の調理員の採用難が続いており、安定的な給食提供が困難になるリスクがあるため。
- ・内容：令和8年度から調理業務のみを民間委託する方向で検討している。委託後の調理員については、委託会社の判断となるが、委託会社に転籍して給食センターで調理していただくことも可能らしい。
- ・メリット：欠員時の人員補充が委託会社側で可能になり、運営が安定する。

※ 課長補足：

- ・深刻な人手不足と運営リスク：令和2年のコロナ禍の時には、調理員が濃厚接触者になるなどで人員が確保できず、給食提供が危ぶまれる「綱渡り」の状態が数回あった。調理員が2名以下になると物理的に提供ができなくなる。現在の採用難を考えると、村の直接雇用だけで安定させるのは限界に近い。
- ・民間委託のメリット：近隣の市町村の多くは、すでに民間委託を導入しており、民間委託にすることで、急な欠員が出た際も委託会社内で代替りの人員をカバーできるため、安定した運営が可能になる。
- ・現在の調理員について：転籍の話について、委託会社の判断になるため、必ず転籍するとは限らない。
- ・役割分担の明確化：調理業務のみを委託し、献立作成や食育を担う栄養士(県派遣)や、所長、事務員などは、引き続き、村教育委員会で配置する。

※ 委員長補足：

- ・食の安全について：安定も大事ですが、安全の面も非常に大事でございますので、この辺も含めて検討していただきたいと思います。

※ 委員の感想・意見：

- ・保護者代表：
 - ・子供たちが毎日給食をととても楽しみにしており、帰宅後に「今日の給食のこれが嬉しかった」と話題にしている。
 - ・家では野菜を全く食べない娘が、給食のメニューだと食べられることがあり、家庭での献立作りの参考にしている。
 - ・家庭では作りづらいメニューや季節の野菜を取り入れて、美味しく作ってくれていることに感謝している。
 - ・共働きの保護者として、朝にお弁当のことを考えずに済むのは非常にありがたい。
 - ・雪で急遽給食が中止になった際、改めてその存在の大きさを実感した。
 - ・他市町村との比較資料を見て、無償提供を継続している村の苦勞とありがたさを再認識した。
 - ・物価高騰で家庭の食事作りも苦勞している中、これだけ手厚い支援を続けてくれていることに感謝している。

- ・ 子供たちが大好きなソフト麺(袋麺)の業者が廃業したと聞き心配したが、センター側で冷凍麺や乾麺を調理して工夫してくれていることを知り、安心した。
 - ・ 中学 3 年生の息子は普段あまり学校の話をしませんが、給食の話だけは楽しそうにする。
 - ・ 地域でも「ソフト麺の会社がなくなる」という話が話題になるほど、給食は愛されている。
 - ・ 家庭で料理を「給食みたいに美味しい」と褒められるのが、最高に嬉しい。
- ・ 村議会議員・教育委員：
 - ・ 子供から「ハーリック(葉ニンニク)のパスタが出た」と聞き、日々新しいメニューを研究してくれていることに驚き、感謝している。
 - ・ 給食の話題が家庭での会話のきっかけになっていることが非常に好ましい。
 - ・ 清川村のように、温かくて美味しい給食を継続できているのは、村ならではの良さである。
 - ・ 先日の給食中止時のときの食材について質問し、廃棄せざるを得ない食材の厳格な取り扱いルール(衛生管理)について、現場の苦労に理解を示した。
- (質問):
- ・ 教育委員：(2月9日(月)の停電・給水管凍結による給食中止に関連して) 急な給食中止の場合の食材はどうなるか。
- (回答):
- ・ 学校栄養技師：食材については、当日配送されて、その日のうちに使うというのがルールになっている。剥いていない野菜(ジャガイモ、人参、玉ねぎ等)は次の日の給食に代替はできるが、今回のジョア(冷蔵品)など、業者から直接配送された分については、その日のうち飲み切っていて飲みきれない分は、廃棄を学校・園に依頼している。肉(生鮮品)などは損失が出るが全て廃棄した。
 - ・ 課長：学校給食は厳格な衛生管理・ルールがあり、学校給食の食材は「当日に納入したものをその日のうちに使う」のが原則。また、肉などの生鮮品を受け取った職員は、他の食材への影響を考慮して、原則、他の食材に触ることができない対応をとっている。給食中止になった場合は廃棄せざるを得ない(国が定める非常に厳しいルールがある)。また、調理場には、毎月細菌検査を受けているスタッフしか入れない。人手が足りないからといって、検査を受けていない職員が手伝うことは、できない決まりになっている。
- ・ 学校関係者：
 - ・ (今日のメニューについて)揚げパンなど子供たちが大好きなメニューだけでなく、副菜の味付け(酸味の効いたサラダ等)も非常に美味しい。
 - ・ 物価高騰や麺業者の廃業といった困難がある中、チャンポンを作るなど現場の工夫で美味しい給食が維持されていることに感謝している。
 - ・ 行事食の配慮(節分に、園児の窒息事故防止のため豆ではなく「豆乳プリン」を提供)に非常に感謝しており、子供たちも喜んでいた。

- ・「無償化」が当たり前になり、食べ物を粗末にする風潮が出ないように、学校として「無償だが費用はかかっていること」をしっかりと伝え、感謝の気持ちを育てたい。
- ・教職員の給食費は上がるが、それ以上にしっかりと働いて頑張りたい。
- ・今回の雪や道路状況で「当たり前」に届くことが奇跡だと再認識し、食育につなげたい。

4 閉会(副委員長)